

2019 年度 茨城キリスト教大学 FD 報告書

授業改善委員会

(2020 年度)

2020年8月30日

学長 上野 尚美 殿
文学研究科長 David C. Yoshiba 殿
生活科学研究科長 石川 祐一 殿
看護学研究科長 松永 恵 殿
文学部長 飛田 隆 殿
生活科学部長 山中 俊克 殿
看護部長 栗原 加代 殿
経営学部長 申 美花 殿

授業改善委員会
委員長：生活科学部心理福祉学科 岩崎眞和

本学「授業改善委員会規程」第3条の4)により、2019年度に行われました各研究科、学科の授業改善活動についてご報告致します。

文学研究科

【英語英米文学専攻】専任教員5名（学長のぞく）

Special Lecture Series 第3回

内容：言語とコンテキストの関係および教材開発についての演習

日時：2019年8月23日（金）ならびに24日（土）

両日ともに9:30～17:15

場所：茨城キリスト教大学シオン館3階325 CALL 教室

講師：Hanh thi Nguyen（ハワイ・パシフィック大学教授）

題目：Developing Learner's Abilities to Use Language in Context（「コンテキストをふまえた英語運用能力の開発」）

参加人数：5名



文学部

【現代英語学科】(専任教員 12 名 (学長のぞく))

相互の授業参観

内容：現代英語学科教員は本学科の授業を見学・評価を行った

期間：2019 年前期 (5 月～7 月)

別紙：教員担当授業/参観授業一覧参照

参加人数：現代英語学科教員 11 名

ICEE-NET EPIC プログラム 42 回目

内容：英語教育に関する研修会を行った

日時：2019 年 6 月 20 日 (木) 17:40～19:10

場所：11 号館 11203 教室

講師：Harris G. Ives (茨城キリスト教大学名誉教授)

村上 美保子教授 (現代英語学科教授)

題目：Teaching English Effectively –Maximizing English Use in the Classroom–

参加人数：現代英語学科教員 10 名



現代英語学科 FD 講演会

内容：国際コミュニケーションと異文化の理解に関する講演会を行った

日時：2019 年 11 月 7 日 (木) 17:40～19:10

場所：11 号館 11203 教室

講師：天江 喜七郎

(元駐ウクライナ特命全権大使, 元外務省参与)

題目：『国際コミュニケーションと異文化の理解

～一外交官の経験から～』

参加人数：現代英語学科教員 13 名



【児童教育学科】（専任教員 18 名）

1. テーマ：「教員の立場での改組」について
2. 講師： 尚絅学院大学 准教授 相馬 亮 先生
3. 実施日時： 2020 年 2 月 26 日（水） 13：30～15：30
4. 会場：3 号館 3306 教室
5. 講演概要

- (1) 2019 年度尚絅学院大学の改組について
 - ・改組を行った背景について
 - ・教員の改組の捉え方について
 - ・2019 年度以降における大学全体の構想について
 - ・心理・教育学群，学校教育学類の構想について
- (2) 改組を終えて見えてきたもの
 - ・教員について
 - ・教務関連事項について
 - ・学生募集について
 - ・今後の検討課題事項について

以上の項目について講演いただいた。

6. 参加者

- ・児童教育学科専任教員 15 名
- ・他学科教員 3 名 合計 18 名

【文化交流学科】（専任教員 11 名）

本年度の FD では、ユネスコ無形文化遺産「山・鉾・屋台行事」の保護と継承に関するシンポジウムを開催した。この事業をとおして、参加した教員ならびに学生は本学科における一つの柱である「地域貢献」の研究と実践の重要性を再確認することができた。なお、事業の実施にあたっては、学生との協働によって企画・運営を推進した。事業の概要は下記のとおりである。

1 事業名：茨城キリスト教大学シンポジウム

ユネスコ無形文化遺産「山・鉾・屋台行事」の保存と継承を考える

2 趣 旨：2009 年に「日立風流物」と「京都祇園祭の山鉾行事」がユネスコ無形文化遺産になってから、早や 10 年が経った。この間に世界の情勢は変化し、2016 年には改めてグルーピング化による日本からの申請により国指定重要無形民俗文化財の「山・鉾・屋台行事」33 件がユネスコ無形文化遺産になることができた。このシンポジウムでは、山・鉾・屋台行事の保存・継承、そして公開・活用についての現状と課題を各地の事例を紹介して考察する。

3 日 時 : 2019 年 11 月 30 日 (土) 9 : 30 ~ 12 : 50

4 会 場 : 茨城キリスト教大学 11 号館 2 階 11203 教室

5 日 程 :

- 9 : 30 ~ 9 : 35 開会の辞 茨城キリスト教大学学長 東海林宏司
- 9 : 35 ~ 9 : 45 趣旨説明 茨城キリスト教大学文学部文化交流学科主任 岩間信之
- 9 : 45 ~ 10 : 15 基調講演 「山・鉾・屋台行事」の無形文化遺産としての意義
独立行政法人国立文化財機構東京文化財研究所客員研究員 菊池健策
- 10 : 15 ~ 12 : 10 パネルディスカッション コーディネーター 清水博之
- 10 : 15 ~ 10 : 35 全国山・鉾・屋台保存連合会と各地の「山・鉾・屋台行事」が直面する
状況 ~ 秩父祭を中心に ~
パネリスト 全国山・鉾・屋台保存連合会専務理事 高橋信一郎
- 10 : 35 ~ 10 : 55 次の世代への行事の継承について — 高岡市の事例を通して —
パネリスト 文化庁文化財第一課 流森清悌
- 10 : 55 ~ 11 : 15 日立風流物の現状と保存・継承の課題
パネリスト 日立郷土芸能保存会会長 水庭久勝
- 11 : 15 ~ 11 : 30 休憩 (会場設営を含む)
- 11 : 30 ~ 12 : 10 ディスカッション 菊池健策、高橋信一郎、流森清悌、水庭久勝
- 12 : 10 ~ 12 : 25 休憩 (会場設営を含む)
- 12 : 25 ~ 12 : 45 ユネスコ無形文化遺産「日立風流物」操り人形操作実演会
日立郷土芸能保存会
- 12 : 45 ~ 12 : 50 閉会の辞 茨城キリスト教大学文学部長 上野尚美
- 6 参加者 : 本学科教員 11 名、本学の教職員・学生、他学教員と一般参加者など 200 名

生活科学研究科

【生活科学研究科】(専任教員 9 名, 欠席 1 名)

1. 実施目的 :

本専攻における学生確保対策を目的とし、分野設置の必要性について他大学事例を参考に専任教員における検討を行った。(2 分野の統合, カリキュラムの見直しも含め)

2. 日時 : 2020/3/17 13:00~15:20

3. 場所 : 7 号館 7101 教室

4. 検討内容

各教員が他大学の分野設置状況について調査内容を報告した。

報告大学 : 昭和女子大学, 高崎健康福祉大学, 椛山女学園大学, 東京医療保健大学, 藤女子大学, 九州栄養福祉大学, 新潟医療福祉大学, 十文字学園女子大学, 女子栄養大学, 和洋女子大学

5. 分野統合，学生増に対する意見：

- ・分野統合は途中でテーマの変更等で分野が変わった際に授業の取り直しの必要がないといったメリットがある。
- ・現在の体制は学生側からすると受けたい授業を選択しやすくなる。
- ・今後学生確保を目的に分野の統合は意味があるのか？大学院終了後のイメージを学部生，社会人に与える事の方が重要ではないか。分野を統合することでその姿が見えにくくならないか。
- ・分野によってはインターンシップを取り入れる（単位化する）ことで，教員の負担軽減に結び付けられないか。
- ・卒業研究の分野分けを院に活用してはどうか。
- ・助手＝院卒以上の条件の大学も多い。助手のハードルにするのも方法ではないか。逆に助手の業務をしながら修士で学ぶパターンもある。教育職をめざす人材づくりをする方向性も必要。

6. 結論：

今回の FD 研修においては分野が学生確保のネックにはなっていない。分野はこれまで通りとする。今後大学院（学部生含め）入学者の減少が考えられることから大学全体を巻き込んで検討することが求められる。まずは大学院研究科長会議にて提案していく事とした。

生活科学部

【心理福祉学科】（専任教員 13 名）

本学科では，2019 年度末冬季に本学情報センターを中心とした遠隔での授業展開や教育システムに関する FD を企画予定し，調整を行っていた。しかし，2020 年 2 月頃より新型コロナウイルスによる遠隔授業準備の本格化に伴って情報センター主導の FD 展開が困難な見通しとなった。2019 年度の FD 企画は W 科 FD 委員が交代後も進行し，Microsoft Office の Teams（学科チームチャンネル）を用いて，W 科の各教員が遠隔授業や日々の講義等を通じて抱いた疑問や提案等（例：障がい表記の問題，日本人の well-being とは何か，使いやすい授業改善アンケート項目の設定など）を逐次ディスカッションできる環境づくりを行った。

【食物健康学科】（専任教員 17 名）

【第 1 回目】

日時：2019/9/10 10:00～12:00

場所：7 号館 7101 教室

【内容】

2018 年度に実施した FD の検討結果を踏まえて，本学科の学生教育・指導の在り方について討議し，学生の学習意欲を向上させる教育方針について検討を行った。

【まとめ】

本学科の学生が4年時まで学習意欲を継続させるための課題について、入学前、各学年、専門基礎分野、専門分野で整理し、各課題を解決するための対策についてまとめることが出来た。

【今後の課題】

今回の課題と対策について、「管理栄養士・栄養士養成のための栄養学教育モデル・コア・カリキュラム（厚生労働省委託事業，2019年3月特定非営利活動法人 日本栄養改善学会）」の策定趣旨を踏まえ、2022年度から開始する新カリキュラムに反映させる。

【第2回目】

日時：2020/3/10 10:00～12:00

場所：7号館 7101 教室

【内容】

2019年度第1回目FDでまとめられた課題と解決策を踏まえ、「管理栄養士・栄養士養成のための栄養学教育モデル・コア・カリキュラム（厚生労働省委託事業，2019年3月特定非営利活動法人 日本栄養改善学会）」の策定趣旨を反映する教育内容について検討した。

【まとめ】

管理栄養士・栄養士養成のための栄養学教育モデル・コア・カリキュラム（厚生労働省委託事業，2019年3月特定非営利活動法人 日本栄養改善学会）」に対し、現カリキュラムで不足している教育内容、科目の履修順番が異なる箇所、発展型学習の在り方、本学科独自の教育内容の必要性についてまとめることが出来た。

【今後の課題】

本年度のFD研修会でまとめた内容に基づき、新カリキュラムの作成を行う。

新カリキュラム開始前から実施出来る対策については、次年度から順次開始し、学生が卒業後も幅広い視点で課題を探求し、主体的に自主学修を継続できる教育を実践する。

看護学研究科

内容：「実践的メタ分析入門：メタ分析の概要～実践導入まで」

日時：2020年1月31日（金）17：00～19：00

場所：茨城キリスト教大学 8号館 8102 教室

講師：對東 俊介 先生

広島大学病院診療支援部リハビリテーション部門

日本版敗血症診療ガイドライン2020特別委員会 委員

参加者：教員17名，学部参加者12名（うち大学院生4名，病院勤務8名）

看護学部

【看護学科】（専任教員 29 名）

<1 回目>

内容：平成 30 年度看護学教育ワークショップ報告会

自大学の強みや使命を活かす CQI - 自大学をとらえなおす・CQI へのエネルギーを得る

目的：ワークショップ報告より本学の強みを捉え直し、実習指導に焦点を当てた教育指導体制への示唆を得る

日時：2019 年 11 月 25 日（月）17:30～19:00

講師：松澤 明美 先生

対象：学部教員，臨地教員，指導者，管理者等

場所：キリスト教大学 8 号館 8102 教室

参加者：教員 26 名 実習指導者 5 名（うち臨地教員 3 名）

<2 回目>

内容：継続的質改善（CQI）モデルの活用～本学の臨地実習指導の“強み”を改めて見直そう～臨地実習指導を切り口とした継続的質改善（CQI）モデルとその活用について

目的：臨地実習指導における継続的質改善（CQI）を推進するために、実践者より CQI モデルとその活用を学び、本学の臨床実習指導における現状を捉え直すきっかけとする。

日時：2020 年 3 月 16 日（月）13:30～15:10

講師：黒田 久美子 先生

千葉大学大学院看護学研究科 附属看護実践研究指導センター 准教授

場所：茨城キリスト教大学 8 号館 8102 教室

* 新型コロナウイルスに関連した感染症発生のため延期となった。

経営学部

【経営学科】（専任教員 12 名）

1. テーマ

ハラメント防止のためのアンガーマネジメント

2. 概要

授業やゼミ活動における学生とのやり取りの中で、無意識のうちに過剰な叱責をしてしまい、それが学生との関係性を悪化させてしまったり、学生の就学意欲を削いでしまったりすることがある。学生に対する怒りのストレスがさらなる怒りを生み、それがアカハラ、パワハラ、モラハラを引き起こしかない。そこで本研修では、「怒り」の感情と上手

に付き合い、より良い人間関係づくりを目指すアンガーマネジメントを身に着けることを目的とした。

3.講師

一般社団法人 日本アンガーマネジメント協会
講師 阿井 優子氏

4.実施日時

2020年1月7日(火) 12:40~14:10

5.会場

本学11号館 11206教室

6.内容

本研修では、怒りの感情をどのようにコントロールすればよいかという観点から講演いただいた。怒りは、人間にとって自然な感情の1つであり、怒りのない人はいないし、怒りをなくすことも不可能であるという前提の下、怒りはどのような感情から生まれるのか、怒りを抑えるための具体的な方法論について説明があった。

7.参加者

12名(大久保隆弘, 申美花, 浅野義, 三上司, 掛川富康, 今口忠政, 長島正浩, 古井仁, 米岡英治, 栗原正樹, 澤端智良, 田口尚史)

以上